

あなたと博物館

松本市立博物館ニュース No.191 2014.3.1



押絵雛の段飾り
(馬場家住宅)



福寿草
(四賀化石館周辺)

博物館で春を探そう!!

3月の博物館では、ひな祭りの展示や、敷地から見える景色など、様々な春を見ることが出来ます。あなただけの春を探しに博物館に出かけてみませんか？



泉小太郎ゆかりのしだれ桜
(山と自然博物館周辺)



鉢伏山の雁の雪形
(歴史の里から)



松本まると博物館連携企画展「松本の春、見つけた! 2014」

2014年 3月1日(土) ▶ 4月13日(日)

会場

松本市立博物館
はかり資料館／重文馬場家住宅

女性の押絵雛(市立博物館)

もくじ

- 誌上博物館 ◇ 松本まると博物館連携企画展「松本の春、見つけた! 2014」… 2
◇ 企画展「松高生の青春日記3—信州に学んだこと—」… 3
◇ 名古屋大学との研究交流会～有形遺産の魅力～… 3

- 博物館TOPICS ◇ 新規事業のお知らせ… 4
◇ 特別展 崇教館の歴史を探る
～松本にあった藩学～記念講演会… 4
ガイドコーナーはてんぼく… 4

松本まるごと博物館連携企画展「松本の春、見つけた! 2014」

松本市立博物館 Tel.0263-32-0133

月遅れのひな祭り 押絵雛の女性たち

松本地方では、かつては4月3日に月遅れのひな祭りを行う家庭が多く、まさに春を告げる風物詩のひとつでした。明治9年(1876)4月1日の『信飛新聞』第131号には、「松本生安寺小路は従来雛市とて節句前は大さう賑ひましたが新暦御発行依頼頓と止みに成たのがどう云訳か本年は又再発して四五日前まで昼夜大変賑ひました」と、新暦の採用によりこの地方で一端下火となった月遅れのひな祭りが、再び盛んとなったことが記されています。

この月遅れのひな祭りに加えて、特徴的であったものがあります。それは、「押絵雛」といわれるおひな様を飾ったことです。押絵雛とは、人形の姿を描いた厚紙を布で包んで、中に綿を入れ立体的にしたものです。

押絵雛づくりは、幕末から明治にかけて全国で盛んに行われました。京都が発祥とされ、ここで技術を知った人々が各地に広めたといわれます。松本における押絵雛づくりについての沿革などは、詳しいことはわかっていません。しかし、すでに天保年間には盛んに製作され、各地に出荷されていた記録があります。始まりは、藩主が殖産のために奨励したともいわれます。明治維新後は、家計を支える内職のひとつとなり、特に旧士族の生計を支えたほか、町屋にも広がりました。前述の生安寺小路(高砂通り)にも、多くの押絵雛が並んだとされます。しかし、明治時代後半から大正時代にかけて今日見られる雛人形が広く普及し、押絵雛は次第に姿を消していきました。

現在、松本市立博物館は約800点の押絵雛を所蔵しています。華やかな服飾の男雛や女雛が多数見られるほか、七福神や歴史上の人物なども見られます。



押絵雛 巴御前

なかでも、描かれた女性の姿は様々で、女の子に寄せた人々の思いをかいま見ることができます。特に松の幹を抱えて、黒馬にまたがる巴御前の姿は、健やかに育ってもらいたいという思いがにじみ出ているかのようです。

このように押絵雛は、かつての特産物であるの

みでなく、往古の人々の精神性をうかがうことのできる民俗資料なのです。今年の展示では、館蔵コレクションの中から女性の姿の押絵雛を中心に3館で展示します。春の訪れを感じるとともに、描かれた押絵雛の姿から歴史の息吹を感じてみませんか。

(松本市立博物館)

はかり資料館 Tel.0263-36-1191

町屋で楽しむひな祭り

創業百年を越える老舗店も多い中町には、かつては4月3日のひな祭りに段飾りの人形雛と一緒に幾つかの押絵雛を飾ったお宅がありました。人形を扱う店(高砂通り)が近くだったこともあって、中町の商家では代々、明治時代が最盛期だった「松本押絵雛」を大切に保管していたようです。

商家の子どもたちの楽しみのひとつであった伝統行事、押絵雛のひな祭りを、明治時代の土蔵造りの町屋、はかり資料館でご覧ください。

(はかり資料館)

馬場家住宅 Tel.0263-85-5070

古民家で楽しむひな祭り

江戸時代末期に建てられた重要文化財馬場家住宅。昔の生活空間である古民家の室内で雛人形を鑑賞できるのが醍醐味といえます。まさに150年前にタイムスリップしたかのよう。

松本市立博物館の所蔵品の他、市内人形店の協力も得て、明治時代を中心に製作された押絵雛と、近年に復元された押絵雛を対比してご覧いただけます。華やかな段飾りや額入りのものなど、様々な形態の押絵雛もお楽しみいただけます。

(馬場家住宅)



華やかな段飾り

企画展「松高生の青春日記3—信州に学んだこと—」

旧制高等学校記念館は、旧制松本高校の学生寮「思誠寮」の寮生が昭和17年から19年にかけてつづった寮生日誌10冊を所蔵しています。

本展は、平成21年から22年にかけてこれらの日誌のデータベース化に取り組んだ、信州大学人文学部日本文学分野の学生有志の協力により開催するもので、「記念祭にかける情熱」（第1回・22年度）、「寮生活に忍び寄る戦争の影」（第2回・23年度）に続き、3回目の開催です。

今回は、全国各地から集まった松高生たちが、初めて経験する信州の気候や街並み、風景を通してどのようなことを学んだのか、日誌の内容に基づき、当時の写真や資料などを展示します。

第一部 移ろう季節と高校生活

移り変わる信州の四季の中で、新生活への決意や反省など種々の気持ちに揺れ動く寮生の姿を追います。

第二部 信州の山に思う

ある時はそびえたつアルプスの山々を見つめ、ある時は高原に遊びながら、自らを顧み、学業のこと、寮生活のことなど様々な思索にふける寮生

の姿を追います。

第三部 戦時の信州にて—旧制高校生としての矜持—

戦時下にあって平穏を保つ信州の地を見つめながら、国家の現状を憂い、来たるべき国家指導者としての自分たちが、いかに今を過ごさねばならないかを真剣に問ひかける寮生の姿を追います。

全国から集った若者たちが、信州の風土に何を感じ、学んだのか。本展が私たちのふるさとを見つめ直す一助になれば幸いです。



大正池に映る穂高連峰

(旧制高等学校記念館)

企画展「松高生の青春日記3—信州に学んだこと—」

3月1日(土)～5月6日(火・祝)

[会場]旧制高等学校記念館ギャラリー [料金]無料

馬場家住宅 Tel.0263-85-5070

名古屋大学との研究交流会 ～有形遺産の魅力～

昨年3月に松本市教育委員会と名古屋大学重要文化財馬場家住宅研究センターは「文化・学術活動及び地域貢献に係る連携に関する覚書」を締結しました。それを受け、学術研究成果の共有と交流を目的に、去る1月21日に名古屋大学において「研究交流会～有形遺産の魅力～」が開催されました。

まず、名古屋大学より堀田典裕助教が「近代松本をめぐる鳥瞰図について：山岳都市とその風景」と題して発表し、吉田初三郎などの鳥瞰図を紹介しながら、名古屋との比較を通じ「山水都市」松本を捉え直しました。松本市からは博物館協議会委員の柳澤孝夫さんが、「近代絵葉書・地図からみた松本の魅力」と題し、景観・生活の変化などを、貴重な数千点の収集品から視覚的に紹介しました。

その後、松本市立博物館の窪田雅之館長をはじめ会場の参加者を交えて活発な意見交換が行われました。

また、会場内には「松本まると博物館」の紹介パネルが展示され、博物館が取り組んでいる事業を紹介しました。

重文馬場家住宅では今後、名古屋大学との交流の成果を展示などで紹介していきます。

(馬場家住宅)



名古屋大学での研究交流会

歴史の里 Tel.0263-47-4515

新規事業のお知らせ



藍染めした布

歴史の里では、平成26年4月から新たな事業として各種の実演と体験講座を行います。

実演では、機織りと松本の代表的な竹細工であるみすず細工の製作を行います。実演は、江戸時代に建てられた工女宿宝来屋で行いますので、古い建物と伝統的な技とが織りなす光景を感じ取っていただけます。

体験講座では、機織りとみすず細工に加え、藍などを使って布を染める染色を実際に行うことができます。

この他、松本市内で活躍する建築士から歴史の里に移築された建造物について学ぶ建築講座も行います。いずれも、初心者を対象にした講座ですので、気軽に楽しむことができます。ぜひ、歴史の里に足を運んでみてください。

(歴史の里)

松本市立博物館 Tel.0263-32-0133

特別展 崇教館の歴史を探る～松本にあった藩学～
記念講演会 2月22日開催

特別展の開催に際して、藩校の崇教館について関係資料を調査しましたが、まだまだこの藩校についての沿革や出来事がわかっていないことが多いということを知りました。このことを調査に先立って教示くださいましたのは、山本英二先生(信州大学人文学部教授)です。山本先生は、長年、崇教館で儒者をつとめた多湖家の文書を研究なさっておられます。

近世から近代にかけて、松本平をリードする指導者を育成し、また、初代文部次官の辻新次ら、近代国家を担う人物を輩出した崇教館の役割は、大きいものであったと確信しています。また、関係資料も膨大に残されており、今後の研究成果に期待して、展示及び講演会を行いました。

市内に残る文書の整理・読解が進むことは、崇教館の全容解明に一步近づくことでもあるといえるでしょう。

今回の講演会をきっかけに、崇教館に関する研究がさらなる進捗を見せ、貴重な発見のあることが期待されます。

(松本市立博物館)

ガイドコーナー はんてんぼく

松本市立博物館から

☎0263-32-0133

松本まるごと博物館連携企画展
「松本の春、見つけた! 2014」関連事業

松本の春、見つけた! 観覧料3館割引
会期中に連携実施3館では、観覧券の半券提示で2館目以降は団体料金でご覧いただけます。

甘酒サービス

企画展開催の3館で甘酒の無料配布を行います。

日時 4月3日(木)
午前9時30分～
無くなり次第終了

昨年の様子



記念講演会

「開智学校からはじまった松本の図書館
～開智書籍館～」

博物館で開催中の特別展「学都松本の礎 近世・近代、学びの場」を記念して、博物館と中央図書館のタイアップ講座を開催します。講座終了後は、学芸員の案内による旧開智学校見学ツアーも行います。

日時 3月13日(木)
午後1時30分～3時30分
会場 松本市中央図書館 3階視聴覚室
定員 30名(中学生以上)
講師 遠藤正教(重文旧開智学校 学芸員)
参加料 無料
申込 松本市中央図書館へ
(☎0263-32-0099)

窪田空穂記念館から ☎0263-48-3440

松本の子どもの短歌・2013 入賞作品展

将来を担う子どもたちが伝統文化に親しみ豊かな感性を育むことを目的に、松本市内の小中学生を対象に短歌作品を募集し、今回、全体で7,660人のご応募をいただきました。その中から3部門で入賞した280人の作品を展示します。ぜひご覧ください。

会期 3月20日(木)～4月13日(日)
会場 窪田空穂記念館会議室
観覧料 作品展のみ無料

時計博物館から ☎0263-36-0969

時計ネジ巻き見学会

普段は見ることができない開館前に時計技師が行っている古時計のネジ巻きや時刻合わせの様子を、解説をまじえながら公開します。

日時 3月21日(金)～3月23日(日)
午前9時～10時
会場 松本市時計博物館 常設展示室(1・2階)
対象 一般
定員 20人
観覧料 通常観覧料

四賀化石館から ☎0263-64-3900

来館者に化石プレゼント

福寿草まつりの期間中、化石館に来館された方にモロッコ産の約1500万年前のエイの歯の化石をプレゼントします。

会期 3月1日(土)～3月23日(日)
(期間中無休)

松本民芸館から ☎0263-33-1569

SPレコード コンサート

蔵づくりの民芸館でSPレコードのなつかしい音色をお楽しみ下さい。

日時 3月29日(土) 午後1時30分～3時
会場 松本民芸館
定員 40名
参加料 通常観覧料

あとがき

今回、あなたと博物館を編集するにあたって、博物館のまわりの春を探してみました。その結果、たくさんの春を感じる景色があることに驚きました。こうした魅力を紹介できるよう、展示などを通じて発信していきたいと思っています。

(H.M)

あなたと博物館 No.191

発行年月日/平成26年3月1日 編集・発行/松本市立博物館
〒390-0873 松本市丸の内4番1号 Tel.0263-32-0133 URL:http://www.matsu-haku.com
e-mail: mcmuse@city.matsumoto.nagano.jp 印刷 川越印刷株式会社